



感動と癒やしを届けたい！ 思いを乗せて 響くメロディー

海上草笛・指笛クラブ

牧野 洋一さん(後草)

「自分の唇に合うような大きさの葉でしたら、よろしいかと思いますね。こんな感じで……」。口元に葉を軽く押さえて息を吹くと、葉が震えて音が鳴る。唱歌「故郷」のメロディーが澄んだ音色で響く――。

草笛・指笛を始めたのは9年前、海上草笛・指笛クラブで講師を務める吉岡先生の草笛を耳にしたのがきっかけだった。「音が鳴ることは、子どものころから知っていましたが、音階があって曲を奏でられるということは知らなかったんです。メロディーを初めて聞いて、心に響くような感動を覚えました」と当時を振り返る。クラブの代表を務めるようになった今「人を感動させる曲が奏でられるよう頑張っています」と笑みがこぼれる。

散歩の途中で吹くこともしばしば。公園などで見掛けた草や木の葉を何げなく鳴らす。四季の移ろいを、植物

の葉で感じられるのも魅力の一つ。冬の日に鳴らすツツジの葉に、花の咲く初夏を思うといった楽しみもある。ときには、耳を傾けてくれる人の癒やしになればと、公園を訪れる家族連れなどを前に奏でることもあるのだとか。

今後の目標は、草笛や指笛の演奏で老人ホームなどへの慰問に挑戦すること。「感動と癒やしのひとときを届けることで、少しでも皆さんのお役に立つことができれば」と、レベルアップに向けて練習を重ねる。メロディーは響く、牧野さんの思いを乗せて。

行政へ一言！

子どもからお年寄りまで幅広い年代が集い、一緒にリフレッシュできる場所や機会がもっとあるといいですね。そういう環境ができてくれば、みんなの思いやりやお互いに助け合う気持ちも、より大きくなるのでは。

海上草笛・指笛クラブ

毎月第2・4土曜日の午後2時～4時に海上公民館で活動し、旭市民音楽祭や敬老大会、文化祭などに出演しています。新聞やラジオで紹介されたことがある吉岡先生も、顧問として在籍。見学や参加なども随時受け付けています。

